

<群馬銀行創立 90 周年記念絵画制作>

「つなぐ」「つむぐ」への思い

■作品「つなぐ」

坂東大橋から北側を見ると、利根川と烏川が合流する様子を眺めることができます。

二つの川がひとつになり、下流へとさらに進んでいく様子からは、群馬のこれまでの長い歴史と、これからもさらに続いていくような、悠久の美しさを感じます。

異なる源流を持つ流水が絡み合いながらゆっくりと歩調を合わせていく。その様子は、人と人々が手を結び、讃え合うようにも見えます。

「つなぐ」という悠久の言葉。群馬を代表する河川の合流。

人々の願いが集まり、大きな力と希望となってほしいという思いを重ね「つなぐ」を描かせていただきました。

■作品「つむぐ」

記念絵画「つむぐ」は、これらの川の源流と上流を描きました。

雨や雪が降って土に染み込み、水の雫が生まれて、二つ三つとどんどん大きくなっていく。

さらに、小さな水流が集まって滝になっていく様子を見つめていると、生命の根源の経過や、人それぞれの一縷の思いが満たされていくような印象を持ちます。

「つむぐ」という繁栄の言葉。群馬を流れる河川の源流の一滴。

最初は小さな人々の願いや力もそれが集まることで、細くとも勢いのあるあたたかい水脈になってほしいという思いを重ね「つむぐ」を描かせていただきました。

「つなぐ」「つむぐ」という、悠久と繁栄を象徴する言葉を掲げて前進するとき、そこに集う人には勇気と安心を与えてくれることと思います。

どちらの作品にも、人と人々が手をつなぎ、一人では成し遂げられない挑戦に対しての賞賛の思いを込めて、今回の記念絵画を制作させていただきました。

2023年9月

日本画家・須藤和之